



RI 第 2 6 1 0 地区 井波庄川ロータリークラブ会報

2010-2011 年度 No. 4 5

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、(レイ・クリンギンスミス会長)

INASHORC@athena.ocn.ne.jp

2010-2011 年度 会長 山本武夫、幹事 助田幸雄

2010-2011 年度 RI テーマ



「地球を育み、
大陸をつなぐ」

例 会 記 録

第 1 5 7 6 回例会

平成 2 3 年 6 月 1 5 日(水)

井波文化センターエイトホール

1. 点鐘 会長
2. ソング 四つのテスト
3. ゲスト：長谷川総一郎氏
4. ビジター：西川雄策君(南砺 RC)



5. 米山奨学金授与：米山奨学生 高源さん



6. 会長の時間：先日は、会長幹事の慰労会ということで有難うございました。本日は久しぶりに大勢の会員が

出席頂き、大変嬉しく思います。私の年度も今日を含め、あと 3 回となりました。先日は、庄川クリーン大作戦に大勢の会員に皆様の参加を得まして有難うございました。3 日の「となみ野公共交通フォーラム」にも、多数の参加を得まして、城端線を存続させようという機運を盛り上げる効果はあったと思っております。報告も各テーブルにあります、ご覧ください。また、HP にも掲載します。また、7 日に、現・次期会長幹事懇談会が、高岡万葉 RC の主催でありましたが、そこで、姉妹クラブに義捐金を送ったお返しに、「3.11 大震災写真集」を貰われたそうですが、当日の参加者にも配布して頂きました。回覧します。

さて、本日は、ゲストで、長谷川総一郎先生をお招きしました。これから仲間としてお付き合い頂くことを嬉しく存じます。米山奨学生の高源さん、本日 2 回目ですね、宜しくお願いします。西川さん、ようこそいらっしゃいました。ごゆっくりどうぞ。



7. 幹事報告：①ハイライトよねやまが来ております。②

「新老人の会」会長 日野原重明先生百歳記念講演会
「生きがいをもとめて」の案内が来ております。③例会変更の案内。④先日の「どうする城端線」フォーラムにパネラーで出席された山口ガバナー補佐が、先日の現・次期会長幹事懇談会で、呉西全体で公共交通を考えないといけないので、次年度は第3分区・第4分区合同で、この問題を取り上げるよう引き継ぎをしたいと話されていました。⑤（会長補足）例会出席表ができています。メイキャップが必要な方は、事務局までお尋ねください。

8. その他の報告：①河合会員：各テーブルに1-2枚コピーをもってきました。京都迎賓館の参観を希望される方は是非どうぞ。

9. ニコニコBOX(助田幹事代理：本日7名 18000円)
上田会員：6月5日、庄川クリーン大作戦お疲れさまでした。

三谷会員：本日の卓話、拙い話ですみません。

斎藤会員：長谷川様、西川様ようこそ。来週の卓話、急用が入りできません。プログラム委員長さん、よろしくお願いします。

岩崎会員：誕生祝御礼。長谷川様、西川様ようこそ。早退します。

河合会員：期間限定で、京都迎賓館の一般参観者募集中です。希望の方はどうぞ。

山本会長①：四女が2年連続でインターハイ出場が決まりました。三女が先週まで教育実習で井波中に来ており、久しぶりに賑やかな我が家でした。

山本会長②：米山奨学生の高源さん、ようこそ。長谷川総一郎先生、ようこそ。これからお付き合いをさせて頂きことを嬉しく思います。西川様ようこそ、ごゆっくりどうぞ。

助田幹事：本日は、会から支援金(ごみゼロの看板代)を頂きました。長谷川様、西川様、ようこそいらっしゃいました。

10. 出席委員会報告：18名中15名出席(調整後83.33%)



卓話「雑感」 三谷貴志夫会員

三谷会員：1か月ほど前、日展富山展の鑑賞会の時に6月15日の例会が卓話当番と聞き、それから何を話そうか迷っていました。長谷川さんや西川さんもおられドキドキしています。

5月10日のその日展鑑賞会で、横山豊介先生の解説でしたが、ちょうど福光のM君という友人と出会い、横山先生の解説について行ってもいいかというので、お願いして一緒に回らせてもらいました。大変、良かったと喜んでいましたが、私のような素人が、ただ日展のような展覧会を見に来て、解説なしでは、ただ見たというだけです。その点、ロータリーの鑑賞会では、プロの解説があり、背景や芸術性などいろいろよくわかります。大変ありがたいものです。

ところで、北日本新聞では、この日展富山展の文化人が作品を見て、一筆を寄せていました。ちょうどこの日、井波庄川ロータリークラブが日展富山展を鑑賞したという記事の横に、井波の斎藤晴之氏の工芸作品「遙か想い」(特選)についての一筆が掲載されていました。

そのコメントを寄せた川井城子氏(俳人)は、その抽象的な工芸作品を例えて、12面観音の仏像に、なぜか無力な自分がその前では「言葉の要らない仏、言葉のいる人間、言葉の通用しない地獄」と、作者の遙か思いに許されるという気がする、と、独特の文学表現で表していました。

川井城子(現在北日本新聞社砺波支社のカルチャー教室(俳句)の講師を務める、県俳句連盟理事です：筆者調べ)氏は、実は私の福野中時代の教え子で、井波の連句の会に入ってから、向うから自己紹介を受けてわかりました。句集を2冊出しているようで、活躍中です。さすが

に斎藤晴之さんの作品を仏像にみるというのは、俳人の目であるとその記事を読んで、納得したものです。

日展富山展の作品評は、川原和夫さんの作品を、桂米福(落語家)がコメントしていたり、志観寺範従さんの作品を、箏曲家がコメントしたりしていましたが、これはどれも何か当たり前のコメントで、川井氏のような俳句をする人の目で見たようなものには程遠かったようです。川井氏の目は、城端にあって育てられたのではないかと思います。城端は昔から、善徳寺があり、庵歌などが数々あり、文化を育てる下地がありました。

今回の日展富山展の鑑賞時間は少なかったため、書道部門はゆっくり見られませんでした、中でも目に付いたものがいくつかありました。

余談ですが、最近日経新聞の文化欄が面白く、現在「長谷川等伯」の人生を描く小説が連載中ですが、本人は100以上の仏像を彫った人で、絵を描いても、その人がどういふことを考えているかまで描く作家だったそうです。信長の比叡山焼き討ちの時に、公家筆頭の近衛家の住人を救ったために、後に近衛家に抱えられ出世したのだそうです。

以上で、時間前ですが終わります。

で初めての男の子で、かわいがられ、南部の伯父にもかわいがられたことがこの道に入ったきっかけかも知れません。私は、40年間この仕事をしてきて、現在珍しいと研究対象になっています。彫刻を240点ほど、美術教育の論文を120篇ほどと、二つの事をしてきました。今は専門分化されて、どちらかをする人が当たり前ですが、私の時は、国の政策に乗せられたのかもしれませんが、こうして普通と思っていました。

これからの余生は、のんびり彫刻をからながめて、社寺の造形を調べたりしようかと思っています、そういう意味では瑞泉寺など井波には基礎資料がいっぱいあります。

幹事：長谷川先生、有難うございました。さすがに大学の先生だけに、終了時刻1時半ぴったりに終わって頂きました。(会長：閉会点鐘)

助田幹事：本日ゲストの、長谷川総一郎先生、5分余り時間がありますので、突然ですが、一言お願いします。



長谷川総一郎氏：今年の3月に富山大学を定年退職しました。現在66歳です。大学人としてピークは54-5歳でないでしょうか。富山大学の学長も55歳で、脂がのっています。井波庄川ロータリークラブといえば、伯父の南部吉英が入っていました。私は7人姉弟の4番目で、上が女